

人体の構造と機能及び疾病

問題 1 人体の構造と機能に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 視覚は、後頭葉を中枢とする。
- 2 腸管は、口側より、空腸、回腸、十二指腸、大腸の順序である。
- 3 肺でガス交換された血液は、肺動脈で心臓へと運ばれる。
- 4 横隔膜は、消化管の蠕動ぜんどうに関わる。
- 5 副甲状腺ホルモンは、カリウム代謝をつかさどる。

問題 2 高齢者の脱水に関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 体全体の水分量は、若年者と変わらない。
- 2 喉の渇きを感じやすいため、脱水になりにくい。
- 3 1日の水分摂取量は、若年者より多い。
- 4 降圧利尿薬の服用は、脱水の原因にならない。
- 5 腎臓による水の再吸収能力が、低下している。

問題 3 消化器の構造と機能に関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 唾液には、消化酵素は含まれない。
- 2 胃粘膜からは、強アルカリ性の消化液が分泌される。
- 3 膵臓すいぞうには、内分泌腺と外分泌腺がある。
- 4 小腸は、水分を吸収しない。
- 5 胆汁は、胆のうで作られる。

問題 4 事例を読んで、国際生活機能分類(ICF)に基づいて分類する場合、正しいものを1つ選びなさい。

〔事例〕

Aさん(50歳、男性)は、脳出血により片麻痺を残したが、リハビリテーションによって杖と下肢装具を用いた自立歩行を獲得し、復職を達成した。混雑時の通勤の負担と、思うようにならない気分の落ち込みから仕事を休みがちとなったが、職場より出勤時間の調整が図られ、仕事を再開するに至った。

- 1 片麻痺は、「活動」に分類される。
- 2 歩行は、「心身機能・身体構造」に分類される。
- 3 歩行に用いた杖と下肢装具は、「個人因子」に分類される。
- 4 気分の落ち込みは、「活動」に分類される。
- 5 出勤時間調整の職場の配慮は、「環境因子」に分類される。

問題 5 1978年にWHOが採択したアルマ・アタ宣言に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 先進国と開発途上国間における人々の健康状態の不平等について言及している。
- 2 政府の責任についての言及はない。
- 3 自己決定権についての言及はない。
- 4 保健ニーズに対応する第一義的責任は、専門職個人にあると言及している。
- 5 地域、国家、その他の利用可能な資源の活用についての言及はない。

問題 6 次のうち、脳血管性認知症の特徴的な症状として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 パーキンソン症状
- 2 まだら認知症
- 3 幻視
- 4 感情失禁
- 5 常同行動

問題 7 近年のリハビリテーションに関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 がんは、リハビリテーションの対象とはならない。
- 2 内部障害は、リハビリテーションの対象とはならない。
- 3 脳卒中のリハビリテーションは、急性期、回復期、生活期(維持期)に分けられる。
- 4 リハビリテーションは、機能回復訓練に限定される。
- 5 リハビリテーションを担う職種には、言語聴覚士は含まれない。